

古道を訪ねて ②6



巡礼道 (勝尾寺・中山寺) ⑧

街道の面影を残す新稲地区の民家の間の道を西に進んでいくと、右手の白壁造りの土塀のなかに、『朝日が昇ると影が池田まで届いた』と民話に伝えられる「新稲の一本杉」と、庚申を祀った「青面金剛」の石塔があります（くわしくは裏表紙の「拓本で見るふるさと」をご覧ください）。

一本杉を通り過ぎると民家が途切れ道の左右に畑が広がります。季節を感じさせる木々や花々を眺めながら進んで行き、「石澄橋」を渡り池田市畑に入ります。「石澄川」の上流（橋から北へ1・5km）にある『石澄滝』は、水量が少ないものの落差が約20mあり、自然に囲まれて神秘的な趣があります。

石澄橋と続けて堂九本川（石澄川

支流）に架かる橋を越えると、道の右側に五輪塔・石仏・青面金剛の石塔などが祀られています（下の写真）。

畑地区は奈良時代から平安時代の「秦上郷」の一部であると推測され、古代豪族「秦氏」の居住地であったと考えられています。また、明治・大正時代の頃には、梅の林が広がり「畑の梅林」と称され、箕面の滝見物と併せて、多くの人々が訪れる観光地として有名でしたが、現在は住宅地が立ち並び、当時の面影はなくなっています。さらに西に進み、畑の旧集落のなかを進んで行くと巡礼道から左に分岐する小道の所に、寛文12（1672）年の銘がある道標があります。

右面

右 中 山 道

正面

南無阿弥陀仏 寛文十二年 東畑村敬白 9月吉日

左面

左 仏 日 寺 道

右に行く道が中山道（巡礼道）、左に行く道が仏日寺道であることを示しています。ここから南約300mに位置する「仏日寺」は中国から来日した「隠元禪師」に師事した麻田藩主「青木重兼」が寛永7（16



30）年に創建した黄檗宗の寺院で、境内には歴代の浅田藩主の墓が所在します。

